



かなざきひさの町政報告

令和7年に町制100周年を迎えます。

山梨町長は、現在、積極的な問題への取り組みを先送りにし、全ての解決を、町制が100周年を迎える令和7年まで引き延ばすと言及しています。

今、葉山の抱える様々な問題が重大な局面を迎えており、議会力が試される大事な時なのです！

現在葉山が直面している問題を理解しよう

1

生ごみの問題

生ごみの定義、収集回数、ランニングコストも未定...未だに、町民説明会も開催できない状況。令和7年から分別収集が行われ、葉山町クリーンセンター内で堆肥化されます。



一般質問の様子を動画で見よう！

葉山町の考え

プラスチック袋で収集し、施設内にて破袋機を稼働。生ごみと袋を分別し、生ごみは堆肥化施設へ。袋は焼却施設へ。
できあがった堆肥は葉山・逗子で無償配布。この作業はクリーンセンター職員で行う。

VS



ひさの考え

破袋機問題。臭い・破損・毎日の洗浄など課題が多く、導入した自治体では使用存続が難しく、無用の長物になっている。
この導入をなんとしても阻止したい。土壌で分解する袋を導入することにより、全てが解決するのではないのでしょうか。

2

公共施設の問題

学校プールが老朽化し、逗子の民間プールを利用して授業を行っています。



ひさの考え

現実を改善する必要があります。
今こそ、町立小・中学校の子ども達と町民が利用できる町営プールの検討をすべきです。

3

公園整備の問題

葉山の中には、整備が行き届かず、利用困難な公園があります。



ひさの考え

62カ所の公園を用途別に整理することを提言しています。(各地区へ防災公園・遊具のある公園・プレーパーク・スケートボード公園など)



4

給食センターの問題

小中学校の給食を、センター方式にすると決めたのですが、全く進んでいません。その間にかかった経費は3000万円。レッドゾーン[※]でもある予定地に、そもそも無理があるのでは？

※「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」は、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制されます。



ひさの考え

5年間の暫定期間で、中学校給食が始まりました。その後の予定をどのように考えているのか、継続して提言を続けます。



5

開発の問題

まちづくり条例[※]の規定を遵守しないで、開発に同意する事例があり、近隣の住民が多大な迷惑を受けています。

※まちづくり条例は、全ての人が、町の環境保全と創造に貢献できる、潤いと活力を実感できる「まち」をつくるため、「協働によるまちづくり」「開発事業の手続き」「紛争の調停」を柱として、まちづくりの基本的な仕組みやルールを定めたものです。



ひさの考え

今、住んでいる人々が安心して住み続けられる環境を持続できるように、開発問題に取り組めます。



かなざきひさの今期最後の一般質問 令和5年3月14日

(1) 町長のトップとしての調整能力を問う

町民から訴訟[※]を受けており、そうなる前に町長としての対応があったのではないかと感じています。その他の危うい事例も多々あり、町民との信頼を得るよう、トップとしての、調整能力を発揮するよう提言をしました。

※元消防団員が分団内の揉め事に対し、町長が調整を怠ったことにより受けた損害賠償請求

(2) 臨御橋（葉山臨御橋架け替えプロジェクト「赤橋プロジェクト」）について

多くの方々から寄付を募り、未だに実現の糸口が見つかりません。町長の提案で始めた事業であり、どうしても町長の任期中に決着しなければならないと提言しましたが、町長は「行政の継続性で」との答弁でした。

※葉山町のウェブサイトにもこう書かれています。「現在、新型コロナウイルス感染症の拡大、資材高騰や原油高によるコスト高を受けて、改めて橋本体設計および、資材搬入等工事計画の全体見直しを行っております。

(3) 長柄交差点の横断歩道設置

長柄交差点では、返子方面から歩くと、御用邸に向かう左の歩道に行くことができません。歩道橋があるということで、横断歩道の設置はしないとの警察の規定にあるそうです。バリアフリーに齟齬[※]のある規定なので改正し、横断歩道を設置の提言をするよう町に求めました。歩道橋を渡れない方々がいるということを考えなくてははいけません。

※「齟齬（そご）」は、双方の言動が食い違ったり噛み合わなかったりすることで物事が思い通りに進まない状態を指す言葉です。



50年前、御用邸前の海岸に建てられた「臨御橋（りんぎょばし）」

